

「すまいる子ども・若者プラン」について

Q 三条市が子育てしやすいまちであると思う人の割合は、5年前に比べ半分に減っている。三条市を選ぶ若者が増えていると言われている中で、何が足りて何足りないのか。
A 設問の記載方法を見直したことで回答がそうなった。

新型コロナウイルス感染症対策について

Q 第2波が懸念されている中、避難所における3密を防ぐ対策はどのように考えているのか。
A 3密が発生しないよう、人と人との距離を確保すること、定期的な換気を行うなどに取り組む。これまで使用していなかった普通教室や会議室等を活用することで、一人当たりのスペースを拡大する。

Q 小中学校における遠隔授業の今後の活用について、試作動画は今後どのように活用するのか。
A 今回作成した動画は各教員が視聴し合い、研究することで動画作成の



建設中の三条市立大学

国道403号三条北バイパスと第二産業道路の渋滞対策、都市計画道路の見直しについて

Q 国道403号三条北バイパスの整備状況と今後の見直しはどうか。
A 第二産業道路、特に荒町交差点から興野交差点までの渋滞対策はどうか。また、まちづくり全体の観点から都市計画道路などを見直す時期にきているのではないかと。
A 国道403号三条北バイパスについ

技術向上につながるものと考えている。

熱中症予防対策について

Q 新しい生活様式が求められている中、特に夏場のマスク着用はリスクが高まる。市として注意喚起の取り組みはどう考えるのか。
A まず県が独自の基準に基づき、県内の状況を感じ拡大が見られない平時であると捉えている。日々の生活や社会経済活動を極力以前の形に戻す努力をすることが課せられた使命と捉えている。



「ひと涼み処オアシス」を開設

マイナンバーカードの取り組みについて

Q マイナンバーの申し込みはどのように対応していくのか。
A 全世帯にチラシを配布する。スマートフォンによる予約申し込みに必要なアプリの一本化で、手続の簡素化が図られる。丁寧なサポートを実施する。

三条市の財政危機問題について

て、それに接続する市道新田川線を整備する。
A 第二産業道路については、県で対策の検討が始まっている。
A 都市計画道路の見直し等は、交通環境の変化を踏まえ、長期末整備路線の廃止を含め、現在課題を整理している。

災害時における感染症対策について

Q 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、三条市の避難に対する基本的な考えはどうか。
A 自宅の2階で安全が確保できる場合には、避難所ではなく自宅の2階に垂直避難を、また堤防直下や山沿いなど家屋倒壊の恐れがある地域の方には避難所への水平避難をお願いする。



避難所用段ボール間仕切り

Q 避難所での感染症対策はどうか。
A 基本的な感染症予防を徹底して行い、熱等の症状のある避難者については、一般の避難者と動線や避難スペースを分離して対応し、トイレも体調不良者の専用トイレを設ける。

Q 避難所での熱中症対策はどうか。
A 水分や塩分の補給ができる物資の

Q 今年度予算の市債と公債費の金額は、どちらとも94億円。

Q 財政見直しを公表する考えはない。

「臨財債」に対する認識について

Q 「臨財債」の使い道は、何にでも使える。

ウイルス騒動による財政シミュレーションの見直しについて

Q 見直しの必要はないのか。
A 必要はない。

新型コロナウイルス感染症で、今後の三条市の医療体制はどうか

Q これから第2波第3波に備えた県央地域および三条市の検査体制はどうか。
A 感染症に対応する感染症指定病院は県内に6病院しかない。専門病床は結

調達に努め、小まめな水分補給等を呼び掛けるとともに、暑さ指数で熱中症の危険性の高い日には、体を冷やすための保冷剤等を用意する。

Q ICTを使った技術が避難者の安全のために開発されているが、避難所のネット環境はどうか。
A 水害時に開設される1次2次避難所34か所中30か所にネット環境がある。

Q 大災害が発生した際の三条市の災害ボランティアの指針は何か。
A 社会福祉協議会とともに、全国社会福祉協議会が策定したガイドラインを参考に、当市における対応を検討している。

三条市立大学の開学に向けた準備状況について

Q 受験生の不安払拭策について新型コロナウイルス感染症問題を踏まえどのように考えているか。また、もろもろの準備状況はどうか。
A 受験生が不安を抱かないよう、入試対策用想定問題をホームページで公開したり入試時に3密にならないよう対策をする。
A 学長予定者が地元企業を回り、直接

核も含め66床。重症者の集中治療室は54床しかない。県央医療圏は感染症指定病院もなく流行期の対応はどうか。
A これから迎える季節性インフルエンザ流行期に新型コロナウイルス感染症が重なる大変だ。例年以上にインフルエンザワクチン接種が重要だと考えが対応はどうか。
A 県は、三条、燕、加茂の3市医師会に対し、7月をめどにPCR検査センター設置を委託した。

医療体制の整備は県が行う。766床の整備が進んでいる。県は医療圏にかかわらず入院の調整を図るとしている。市は65歳以上の人を対象にインフルエンザ予防接種費用を助成している。10月をめどに周知を図る。

熊の出没が多発。出没状況と対策は

Q 下田地域で熊の出没があいついでいる。例年と比較して出没状況はどうか。また、対応について伺う。
A 過去10年間の4月から6月の目撃情報は平均8.5件。過去5年間では11件。今年(質問時点)は13件と増加傾向だ。
A 熊の出没を災害と捉え、マニュアルに基づき対応している。